

人口減少社会における地域づくり対策特別委員会 記 録

1 会議の日時	<p style="text-align: right;">開 会 午前 9 時 58分</p> <p>令和5年7月5日</p> <p style="text-align: right;">閉 会 午前 11 時 20分</p>	
2 会議の場所	第1委員会室	
3 出席者	委 員	<p>委員長 玉田 和浩 副委員長 松岡 正人</p> <p>村下 貴夫 佐藤 武彦 伊藤 秀光</p> <p>高殿 尚 長屋 光征 所 竜也</p> <p>小川 祐輝 木村 千秋 判治 康信</p>
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	<p>主査 古藤 綾乃 主任 脇若 知香子</p>	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	子どもを産み育てやすい地域づくりについて	
2	その他	

6 議事録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから、人口減少社会における地域づくり対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、人口減少社会における地域づくり対策に関し、今年度の調査項目のひとつとしている「子どもを産み育てやすい地域づくりについて」を議題とし、協議いただくため開催したものである。

本日は、執行部のほか、議題について企業での取組を報告いただくため、参考人として、アース・クリエイト有限会社代表取締役社長岩田良様にお越しいただいた。

岩田様におかれましては、大変ご多忙中のところお越しいただき、お礼を申し上げます。是非、活発な意見交換ができればと思うので、よろしく願います。

質疑については、ご報告終了後に願います。それでは、岩田様、報告をお願いします。

（参考人説明：アース・クリエイト有限会社 代表取締役社長 岩田良）

○玉田和浩委員長

ただいまの説明に対して、質問等はあるか。

○村下貴夫委員

貴社の「働く時間の改革」などの取組は、どのように検討して導入したか。

○岩田参考人

先輩の意見、若手従業員の意見、自身の経験をあわせながら検討した。

○長屋光征委員

週1回の短時間で勤務する従業員は、何の業務を行っているか。

○岩田参考人

主に数字入力等の業務を行ってもらっている。人によって出勤できる時間も異なるため、1人で業務を受け持つわけではなく、複数人からなるチーム制にして、業務を細分化している。

○長屋光征委員

チームのように組織化して業務を行う場合、報告、連絡等を徹底しないとうまくいかないと思うが、社内の連絡体制等をどのように徹底しているか。

○岩田参考人

直属のリーダーが業務の管理を行うほか、SNS等の情報共有ツールを活用して情報共有を行っている。

○長屋光征委員

岩田参考人が設立したNPO法人未来へのみちの取組について教えてほしい。

○岩田参考人

社会問題として、人材不足、担い手不足が課題となっている。子供の頃から仕事で輝いている大人と交流する機会をつくるなど、将来その子供が社会に出る際に、地域で働くことを選択するきっかけになるような取組を行っている。

○伊藤秀光委員

従業員の良いところを言い合う「仲良しの輪」とは、どのような取組か。

○岩田参考人

1人の従業員が真ん中に座り、皆でその従業員に対し、良い点を伝えるという取組を行っている。こうした取組を通じ、上司との間のわだかまりの解消につながったのではないかと感じている。

○伊藤秀光委員

従業員が働きやすい環境整備などは、研修等を受講して考えたのか、他社を模範としたものか。

○岩田参考人

外部研修や他者からの意見等を踏まえ、他社の制度等を模範とすることもあるが、自社に合う制度、合わない制度がある。そういった部分を見極めながら、自社独自の制度も導入している。

○伊藤秀光委員

朝礼は行っているか。

○岩田参考人

それぞれ現場に出る時間が異なるため、会社で行う朝礼は廃止した。

○佐藤武彦委員

働く時間の改革前の離職率が高かった理由をどのように考えているか。

○岩田参考人

当時の経営者の考え方が従業員にうまく伝わらない部分もあったと思う。ただし、先代の考え方である自社愛などがあったからこそ、現在の良い環境整備ができているという点もある。

○佐藤武彦委員

今後、会社をどのようにしていきたいか。

○岩田参考人

まだまだ取り組むことがたくさんあると考えており、事業を広げるほか、経営者を育てることができるような会社にしたいと考えている。

○佐藤武彦委員

利益率が上昇している要因はなにか。

○岩田参考人

従業員の意識向上により、これまで1時間要していた仕事が30分で終わるなど、生産性が向上したほか、全ての仕事について、自ら取り組む姿勢となり、仕事をしていない時間がなくなったことも要因であると考えている。

○佐藤武彦委員

貴社は良い取組をしているため、ぜひ横展開を図ってほしい。

○小川祐輝委員

育休等を推進するにあたり、行政側のメッセージの出し方等について、アドバイスをいただきたい。

○岩田参考人

育休の推進などに取り組む過程で、エクセレント企業などの認定制度があったことが、取組を継続できたきっかけになった。また、行政からの色々な情報提供に感謝している。ただし、助成金等に関しては、当社の場合、先行して取り組んでいることが多く、支援制度が使えないことに矛盾を感じることもある。企業が独自で取り組んでいることを後押しする制度があると、中小企業としてはありがたい。

○村下貴夫委員

元はダンサーを目指していたと言うことであるが、建設業に転職する際、どのように気持ちを転換したか。

○岩田参考人

ももとは、生活のためにアルバイトを始めたが、人に喜んでもらうことや、苦労した仲間と成果を出していくことにやりがいを感じたことなどにより、建設業に転職していくこととなった。

○松岡正人副委員長

現在は、障がいがある方や、外国人が増えているが、今後、共生社会というテーマで会社のビジョンがあれば教えて欲しい。

○岩田参考人

現在も人材確保が難しいことを踏まえると、将来的には、DXなどを推進することにより、多様な方

々の雇用を生み出して行く必要があると考えており、弊社もそうした取組を進めていきたい。

○松岡正人副委員長

共生社会というテーマについても、今後取り組んでいただきたい。

○木村千秋委員

従業員の9割が子育て世代ということであるが、女性従業員の平均年齢は。

○岩田参考人

40代である。

○木村千秋委員

女性従業員の声により制度化されたものはあるか。

○岩田参考人

「フレックスタイム制」、「短時間勤務制」のいずれも女性従業員の声により制度化したものである。

○佐藤武彦委員

近年、人材難となっているが、貴社の求人の状況はどうか。

○岩田参考人

ありがたいことに、人材は確保できているが、新卒や若い男性の確保に課題認識を持っている。

○佐藤武彦委員

男性育休100%などをアピールしたらどうか。

○岩田参考人

就職フェアなどで、若い従業員にアピールしてもらっているが、新卒者の確保は難しい状況である。

○長屋光征委員

「清流の国ぎふ女性の活躍推進会議」の検討委員に就任していただいているが、意見を発言しやすい環境か。

○岩田参考人

発言しやすい環境であり、私自身は積極的に発言させてもらっている。

○伊藤秀光委員

ビジネス書を利用した社内勉強会を開催しているとのことであるが、どのようなことをしているか。

○岩田参考人

決算書の見方など、従業員が知りたいことをテーマに任意出席で開催している。

○玉田和浩委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、報告については終了する。

以上で、本日の議題は終了したが、他に何か意見等はないか。

また、執行部の方、よろしいか。

(発言等なし)

○玉田和浩委員長

意見等がないようなので、これをもって、委員会を閉会する。

人口減少社会における地域づくり対策特別委員会配席図

令和5年7月5日

第1委員会室

